

乳幼児水泳経験児の発育発達に関する報告

研究第2部 齋藤幸子

I 研究目的

ベビースイミングから水泳を行う児の健康管理の一環として、水泳に通う乳幼児の発育・発達状況を把握する。またその資料を一般乳幼児と比較し、水泳の影響について検討する。

今回の調査のきっかけはスイミングクラブから身体発育値の計測に関して相談を受けたことである。すなわちスイミングクラブ側は乳幼児の健康管理の基盤である身体計測を定期的に行なうことの重要性を認識しており、その方法について検討するところであった。しかし我々のかつての経験から、スイミングクラブという人手、時間など物理的に限られた条件のなかで正確な資料を得ることの難しさは明らかであった。そこで母子健康手帳からの情報収集を提案し、それが現状ではどの程度有効であるか調査を行なった。同時に現在の児の発育・発達状況及び母親の水泳が子供の生活に及ぼす影響に関する認識も調べることにより、冒頭の目的に近付こうとした。

II 調査対象及び方法

毎日スポーツプラザ3ヶ所(東京2, 神奈川1)において3, 4, 5歳児を対象に以下の調査票を配り母親に記入してもらった。

調査票A: 出生から現在までの発育・発達について
(母子健康手帳から転記してもらう)

調査票B: 現在の発達状況(55年幼児健康度調査項目利用)

調査票C: 記述式のアンケートで質問項目は以下の通りである。

1. これまで水泳を続けてきて良かったと思うこと
(1) 健康面 (2) 生活面
2. 水泳開始から現在までに悩んだこと, 困ったこと
(1) 健康面 (2) 生活面 (3) 水泳上のこと
3. 経験から考えて, 水泳を始めるのは生後どれくらいからが適切と思われるか。()歳()か月から

4. 前問の答えの根拠, 理由

なお調査期間は昭和61年3月から4月であった。

III 結果及び考察

1. 調査対象の概要

配付数522に対し回収は178(回収率34.1%)のうち記載不備及び水泳開始後6か月未満のものを除いた148例について集計した。

対象児は男児92名, 女児56名, 3歳児49名, 4歳児54名, 5歳児45名であった。水泳開始時期は0歳(6~11か月)からが49名, 1歳からが22名, 2歳からが18名, 3歳からが47名, 4歳からが10名, 5歳になってからは2名であった。

2. 調査票Aについて

記入に際しての指示は「母子健康手帳を見て保健所・医療機関ではかってもらった計測値を転記し, 自宅で測ったものは記入しないでください」とした。しかし, 発達の記録は母親の判断により母子健康手帳に記入してあるためか, 一部信頼性の薄い値が出てきてしまった。

(例: 首座りの平均2.8か月)。以前の調査¹⁾でベビースイミング実施児は「後追いをする児が少ない」結果が出たが今回は後追いについては記載の不備が多く, 集計不能であった。主な結果を表1に示した。

身体計測値の記入は1, 3, 6, 9か月, 1歳, 1歳6か月, 2歳, 3歳の各時点でよく記入されていたが, 頭囲, 胸囲は1歳すぎから記入のないものが多くみられた。母子健康手帳に記載欄がないので当然といえるが, 水泳と胸囲の発達についての資料を得るためには一考を要する。表2には水泳開始年齢別に出生時と3歳時の身長・体重を示した。55年全国値と比べて出生体重は少なめであるが, 身長は男児平均と同じであった。3歳時点の全国平均値は発表がないので50パーセントイル値を参考に示した。3歳時では体重・身長ともに50パーセントイル値を越える結果が出ている。なお, 水泳経験の条件を揃えた場合についてみるため, 生後6か月から始めた児について下欄に示した。13名と小数例で内男児が12名

表1 水泳開始年齢別発達 -平均月齢表-

() 内はサンプル数

	高 ば い	つかまり立ち	伝い歩き	ひとり歩き	続けて歩く
合 計	8.1 (99)	8.1 (129)	9.6 (135)	11.7 (139)	12.9 (135)
6~11カ月	8.2 (36)	7.9 (43)	9.5 (44)	11.5 (47)	12.6 (48)
1 歳	7.6 (17)	7.6 (19)	9.6 (20)	11.3 (19)	11.9 (19)
2 歳	8.4 (10)	7.8 (16)	9.4 (17)	12.4 (18)	13.3 (15)
3 歳	8.3 (27)	8.3 (40)	9.7 (43)	11.7 (45)	13.2 (41)
4 歳	8.4 (8)	9.7 (9)	10.1 (9)	12.8 (9)	14.2 (10)
5 歳	7.0 (2)	7.0 (2)	9.1 (2)	12.0 (1)	11.5 (2)

表2 水泳開始年齢別発育 -平均値表-

*は50パーセントイル値

	出生時体重(g)	出生時身長(cm)	3歳時体重(g)	3歳時身長(cm)
合 計	3,137 (147)	49.7 (145)	13,916 (112)	93.9 (112)
6~11カ月	3,100 (49)	49.3 (48)	13,840 (31)	93.0 (31)
1 歳	3,036 (22)	49.5 (21)	13,408 (20)	93.4 (20)
2 歳	3,142 (18)	49.7 (18)	13,561 (14)	93.4 (14)
3 歳	3,214 (46)	50.0 (46)	14,215 (37)	94.8 (37)
4 歳	3,171 (10)	50.4 (10)	14,456 (9)	94.7 (9)
5 歳	3,145 (2)	49.3 (2)	14,900 (1)	99.2 (1)
6 か 月	2,883 (14)	48.4 (14)	13,380 (13)	92.7 (13)
55年全国値	男 3,230	49.7	* 13,680	* 92.9
	女 3,160	49.3	* 13,360	* 92.1

をしめるが、やはり出生体重・身長とも全国平均を下回っていたものが3歳時点では体重身長ともほぼ追いついている。

3. 調査票Bについて

現在の発達状況を知り、一般幼児と比較するため昭和55年日本小児保健協会が行なった幼児健康度調査¹⁾(以下幼健調と略)項目と同じ質問をした。多くの項目で、90~95%が「はい」と答えている点は、幼健調と同じであった。(表3, 4, 5)

幼健調では「いいえ」または「わからない」が10%を上廻った項目について考察が加えられているが、本調査結果と関連がある項目は以下の通りである。

3歳児の項目3で「約束や順番が守れる」に「いいえ」と答えたものが幼健調で16%見られたのに対し、本調査では0%であった($p < 0.01$)。また5歳児の項目5は「欲しいものを我慢できる」を「いいえ」と答えたものが、幼健調で13.9%見られたのに対し、本調査では

4.4%であった(有意差はなし)。この2つの項目について、幼健調では「年齢から見ても特に問題はないが、しつけの点などで考慮の余地もある」と考えられている。本調査ではこの意味では良い結果が出たと言える。

3歳児の項目7の「疲れた時や具合の悪い時母親にぐっつきたがる」では、「いいえ」と答えたものが、幼健調では17.5%であったのに対し、本調査では24.5%であった($p < 0.01$)。一方、5歳児の項目6「外から帰ってきてお母さんなどがいないと心配したり泣きべそをかいいたりする」では「いいえ」と答えたものが幼健調では52.1%であり、本調査では8.9%であった($p < 0.005$)。この二つの項目については、幼健調報告では「親子の関わりを見るための質問なので、いいえと答えても発達上問題にならない」と考えられている。5歳児の項目6について大差が見られたが、幼健調では、5~6歳児対象であるのに対し本調査は5歳児のみであることも考慮すれば、特に問題とする必要はないと考える。

斉藤：乳幼児水泳経験児の発達に関する報告

表 3

3歳児上 下本調査例数 49)	はい	いいえ	わからない及 び答えなし
1. 「これをババにあげてきて」「新聞をもってきて」など親の指示による こんでしたがって行動できますか。	97.1% 95.9	1.5% 2.0	1.4% 2.0
2. ままごと、自動車ごっこ、怪獣ごっこなど、ごっこあそびができますか。	95.4 98.0	2.2 0.0	2.4 2.0
**3. 約束したことや順番を守ることができるようになりましたか。	71.4 93.9	16.0 0.0	12.6 6.1
4. 何でも自分でやりたがる場所がありますか。	93.4 89.8	3.6 8.2	3.0 2.0
5. お母さんなどといういろいろなお話をすることが好きですか。	94.6 95.9	2.6 0.0	2.6 4.0
6. お母さんなどから離れて遊ぶことができますか。	92.4 89.8	5.6 8.2	2.0 2.0
**7. 疲れたときやぐあいの悪いときはお母さんなどにくっきたがる。	78.1 67.3	11.9 24.5	10.0 8.1
8. ひとりできつをはくこと、あるいはボタンをはずして上着をぬぐことが できますか。(どちらか片方でもよい)	94.2 93.9	3.2 0.0	2.6 6.1
9. 目をあけて片足立ちができますか。(2秒くらい)	89.8 91.8	4.3 4.1	5.9 4.0
10. でんぐりかえし(前転)ができますか。	88.0 93.9	8.4 4.1	3.6 2.0
11. 片足けんけんができますか。(数歩)	77.0 79.6	16.6 16.3	6.4 4.0
12. はずむボールをひろうことができますか。	83.7 79.6	10.0 14.3	6.3 6.1
13. お手本をみて(○)がかけますか。	85.8 95.9	3.2 0.0	11.0 4.0

** = $p < 0.01$

表 4

4歳児上 下本調査例数 54)	はい	いいえ	わからない及 び答えなし
1. 自分の経験したことをお母さんなどに話しますか。	94.9% 94.4	2.9% 1.9	2.2% 3.7
2. 友だちとお母さん役、運転士役などの役割をもったごっこあそびをして いますか。	86.9 92.6	6.6 1.9	6.5 5.6
3. お母さんなどからほめられると、よろこんで得意がりますか。	97.7 96.3	1.2 1.9	1.1 1.9
4. 勝ち負けのルールがわかるようになり、負けるるとくやしがりですか。	85.6 87.0	7.0 7.4	7.4 5.6
5. 自信ありげにふるまってみせることができますか。	88.0 90.7	7.9 1.9	4.1 7.4
6. ほとんど発音をまちがえずに話すようになりましたか。	79.1 75.9	18.3 14.8	2.6 9.3
7. 信号の色がわかり、交通安全のルールがわかるようになりましたか。	84.5 94.4	6.2 1.9	9.3 3.7
8. 近所のよく知っているところなら簡単なお使いができますか。	76.1 70.4	14.8 16.7	9.1 13.0
* 9. 目をあけて片足立ちができますか。(5秒くらい)	85.3 79.6	2.5 9.3	12.2 11.1
**10. タタミのふちなどをふみはずさないように、あとずさりして歩けますか。 (2メートルくらい)	81.9 63.0	5.6 11.1	12.5 25.9
11. 片足けんけんが5メートルくらいできますか。	80.0 75.9	12.7 9.3	7.3 14.8
12. 頭の上にひろげた週刊誌などをのせて数歩あるけますか。	83.2 68.5	6.8 11.1	10.0 20.4
13. お手本をみて十字(+)がかけますか。	95.2 90.7	1.6 0.0	3.2 9.3

* = $p < 0.05$

** = $p < 0.01$

表 5

5～6歳児 上 下 (幼児健康度調査例数 2966、 本調査例数 45) 注)	はい	いいえ	わからない及 び答えなし
*1. 自分の経験したことを思い出して絵にかきますか。	71.1% 91.1	15.3% 0.0	13.7% 4.4
2. 友だちと一緒に砂や積木で何かをつくって遊びますか。	97.3 93.3	1.3 0.0	1.4 6.6
3. 友だちなどのルール違反を「いけないだよ」などと注意しますか。	87.8 91.1	4.0 0.0	8.2 8.8
4. 友だちのなかに好きな子, きらいな子ができましたか。	75.6 73.3	11.2 11.1	13.2 15.5
5. おもちゃやお菓子などをほしくてがまんすることができるようになりましたか。	80.6 88.9	13.9 4.4	5.5 6.6
***6. 外から帰ってきてお母さんなどがいないと心配したり泣きべそをかいたりしますか。	42.3 82.2	52.1 8.9	5.6 8.8
7. 自分の右, 左がわかります。	87.3 80.0	6.2 6.7	6.5 13.3
8. お話を読んでもらったり, してもらって, そのすじがよくわかるようになりましたか。	85.3 93.3	4.0 0.0	10.7 6.6
9. 両足をそろえて「立ち巾とび」ができますか。(50cm以上)	95.5 82.2	1.6 0.0	2.9 17.7
10. 10cm巾の板や紙(新聞紙をひろげて縦に5つ折りしたくらい)を片足横とびで往復とぶことができますか。	85.0 75.6	7.5 4.4	7.5 20.0
11. 片手で「まりつき」ができますか。(3回以上)	83.7 77.8	9.4 6.7	6.9 15.5
12. 目をとじて片足立ちができますか。(3秒くらい)	91.6 84.4	3.4 2.2	5.0 13.3
13. ヒモで「かたむすび」ができますか。	79.5 71.1	10.8 11.1	9.7 17.7

* p<0.05 *** p<0.005 注) 5歳児のみ

その他で差が見られた項目では、4歳児の項目9「目をあけて片足立ち」(p<0.05)、項目10「後ずさりして2m歩く」(p<0.01)及び5歳児の項目1「経験したことを絵にかく」(p<0.05)がある。幼健調では前者2項目については「課題が年齢相当より難しい、あるいは、これまで余りやったことがなかったのでもうできない、もしくはわからなかったと思われる項目」であるとされ、後者は「質問の意味がわからなかった、あるいは難しく考え過ぎたと推察された項目」とされている。従ってこれらの項目での両対象の差は大きな意味は持たないとする。

4. 調査票Cについて

質問1「これまで水泳を続けてきて良かったと思うこと」および質問2「これまでに悩んだこと, 困ったこと」の結果を表6から表12に示した。回答は複数回答である。生活面の記述の中で多お見られた子供自身の性格や行動に関するものは、生活面から独立させて表8と表11に示した。

良かったと思うことは全体で、健康面132件、生活面96件、性格・行動44件あったのに対し、悩んだこと・困ったことは健康面71件生活面19件、性格・行動23件で良かったことの方が多く記載されていた。

<表6>水泳を続けてきて健康面で良かったと思うこ

表 6 水泳を続けてきて良かったと思うこと
(1) 健康面

風邪をひかなくなった, ひいても軽くすむ	81 (54.7)
体力・抵抗力がついた, 丈夫になった	30 (20.3)
喘息・アトピー症状が軽くなった	9 (6.1)
発育が順調, 体格がよくなった	4 (2.7)
皮膚が強くなった	2 (1.4)
足が丈夫になった	2 (1.4)
姿勢がよくなった	1 (0.7)
便秘が直った	1 (0.7)
耳の病気をしなくなった	1 (0.7)
肺活力が出た	1 (0.7)

() 内%

とで特に目立ったのは「かぜをひかなくなった, ひいても軽くすむ」で81件(54.7%)あげられた。次いで「体力・抵抗力がついた, 丈夫になった」30件(20.3%)であり、これもすなわち風邪などの病気をしにくくなったということと思われる。

<表7>生活面で良かったことは「友達ができた」23件(15.5%)で、これは母子双方にというものが多かった。これはかつて行なったベビースイミングに関する

斉藤：乳幼児水泳経験児の発達に関する報告

母親の意識調査³⁾でもこれと通ずる結果が得られている。すなわちベビースイミングを始めた目的について母親の14.5%は「社交の場を求めて」としていたのである。次いで「生活にめりはり・リズム・楽しみができた」「規則・順番を守るなど集団行動ができるようになった」がいずれも18件(12.2%)であった。後者は調査表Bの結果とつながっている。

表7 水泳を続けてきて良かったと思うこと
(2) 生活面

友達ができた(母子双方に)	23(15.5)
生活にめりはり・リズム・楽しみができた。	18(12.2)
規則・順番を守るなど集団行動ができるようになった。	18(12.2)
洗髪・洗顔・入浴が楽である。	13(8.8)
食欲が出た	7(4.7)
寝つき・寝起きなど睡眠の習慣の改善	6(4.1)
プール・海で(家族一緒に)楽しめる	5(3.4)
その他	6(4.1)

() 内%

<表8>良かったと思う性格・行動の変化は「自信がついた」10件(6.8%)他、努力する、積極的、自立心・自主性がつくなど生き生きとしたたくましい子供像が伺えた。

表8 水泳を続けてきて良かったと思うこと
(3) 性格・行動

自信がついた	10(6.8)
競争心がつく、やり遂げる、努力する	9(6.1)
積極的になった	6(4.1)
自立心・自主性がついた	6(4.1)
社会性がついた、視野が広がる	4(2.7)
礼儀正しくなった	3(2.0)
活発になった	3(2.0)
忍耐力がついた	3(2.0)

() 内%

以上の水泳を続けてきて良かったと思うことは、母親の判断としての水泳の効用と受け止めておくが、以下の困ったこと・悩んだことは必ずしも全部が水泳の影響とは思えず、本人の体質、年齢的なものなどの個人差による問題が含まれると考えられる。

<表9>健康面で困ったこと・悩んだことは「風邪」14件(9.5%)「水いぼ」13件(8.8%)「中耳炎」11件(7.4%)が上位をしめた。風邪については、良かっ

たことの「風邪をひきにくくなった」と相反するが、一度風邪をひくと長期間プールを休まなければならないため悩みが多かった。

表9 これまでに悩んだこと・困ったこと
(1) 健康面

風邪をひき易い、高熱で長期欠席になる。	14(9.5)
水いぼになる	13(8.8)
中耳炎	11(7.4)
とびひ・水疱瘡などの伝染	6(4.1)
アトピー性皮膚炎	5(3.4)
結膜炎などの目の病気がうつる	4(2.7)
喘息性気管支炎・喘息発作・肺炎	3(2.0)
発熱・ひきつけ	3(2.0)
どの程度の症状でプールを休むべきか	3(2.0)
咳・ぜい鳴	2(1.4)
プール後の湿疹	2(1.4)
その他	5(3.4)

() 内%

<表10><表11>の生活面・性格・行動上の悩みは多くが一般的な母親の育児上の悩みと言えよう。今回は対照群をとっていないので論及できないのであるが、プールに通っている児と通っていない児で母親の悩みが異なるか否かは、今後調べてみたい。本調査では悩みよりは水泳のメリットの方が質問1において強調されていると言えよう。

表10 これまでに悩んだこと・困ったこと
(2) 生活面

食が細い	9(6.1)
幼稚園との兼合い(疲れるなど)	4(2.7)
夜更かし・寝ぐずり	3(2.0)
練習時間が遅い(5歳で午後5時から)	1(0.7)
集団に入れなかった	1(0.7)
兄妹片方の病気で両方休まざるえない	1(0.7)

() 内%

表11 これまでに悩んだこと・困ったこと
(3) 性格・行動

わがまま・甘えんぼう・落ち着きがない	13(8.8)
指しゃぶり・おねしょ・しつけ	5(3.4)
おとなしい	3(2.0)
人見知り	2(1.4)

() 内%

<表12>水泳に関してこれまでに悩んだこと・困ったことは「泣いた、嫌がった、怖がった、慣れない」が43件(29.1%)と圧倒的に多かった。これらは現在は喜んで通っているものであるが、始めた当初あるいは長期欠席したあと嫌がったというものである。「上達しない」「指導内容のマンネリ」はベビースイミングでよく聞かれる悩みである。月謝を払っている親としては、同じことの繰り返しや効果が上がらないことについて不満に思うようである。どのような目的で水泳をするかスイミングクラブ側との食い違いも考えられる。

3の水泳開始時期は生後どれ位からが適当と思うかの問いについては、実際にいつ開始したかとクロスさせ表13に示した。回答のあった内0歳をよしとするものが最

も多く57(52.3%)であった。これは0歳で始めたものの88.4%が自身の経験を肯定的に捕らえているためである。その他の年齢で始めたものも、実際に早く始めたものが、早く始めた方がよいと思っており、遅く始めたものはそれ程早くなくてもよいと思っているなど経験を肯定的に捕らえる傾向が表13から伺える。しかし2歳時に始めた群のみは、自身の経験より早く0~1歳で始めれば良かったと考えているものが多い。これは一つの理由に2歳6か月でベビークラスから幼児クラスに移る時期の母子分離がスムーズにいかないことがあるからであろう。適当な開始時期を「わからない」と答えたものは8例、「いつからでもよい」としたものは2例あった。そのほか「水慣れならなるべく早く、泳力のためなら2歳~小学生になるころ」という意見が5件あった。

良いと思う開始時期の根拠・理由については0歳開始をよしとした57例中では、「水に対する恐怖心が少ない」が最も多く、48件あった(抵抗がない、自然に親しめるを含む)。3~5か月開始としたうちでは次いで「首がすわる」4件、「健康的でよい」2件、その他4件であった。6~11か月開始とした内では「体がしっかりする」4件、「母子関係に良い」2件、その他15件であった。

1歳開始をよしとした16例中では「水を怖がらない内」に最も多いが6件、0歳より割合は減る。次いで「0歳では抵抗力がないので」が4件、「抱かずにシャワーなど親が楽」4件、その他が10件であった。

2歳開始をよしとしたのは6例と少ない。「物事が理

表12 これまでに悩んだこと・困ったこと
(4) 水泳に関すること

泣いた・嫌がった・怖がった・慣れない	43 (29.1)
上達しない	7 (4.7)
コーチの変動・指導内容の差などの不満	7 (4.7)
指導内容のマンネリ	2 (1.4)
通うのが遠い	2 (1.4)
健康のため始めたはずが競争になってしまう	1 (0.7)
他の子について行けるか不安	1 (0.7)

() 内%

表13 適当と思う水泳開始年齢について(経験との関係)

適当と思う 実際の開始年齢	合 計 人数 回答数	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳~	不 明
合 計	148 109	57 52.3	16 14.7	6 5.5	15 13.8	9 8.3	6 5.5(%)	39 -
6~11 月	49 43	38 88.4	3 7.0	1 2.3	1 2.3	-	-	6 -
1 歳	22 16	7 43.8	6 37.5	2 12.5	1 6.3	-	-	6 -
2 歳	18 14	4 28.6	6 42.9	1 7.1	1 7.1	1 7.1	1 7.1	4 -
3 歳	47 28	7 25.0	-	2 7.1	11 39.3	5 17.9	3 10.7	19 -
4 歳	10 7	1 14.3	1 14.3	-	1 14.3	3 42.9	1 14.3	3 -
5 歳	2 1	-	-	-	-	-	1 100.0	1 -

解できる」2件「意志表示ができる」2件の他、4件の理由が挙げられた。

3歳開始をよしとした15例では、「コーチのいうことが理解できるようになる」が5件、「親離れができる」「自分の意志でやる」「経験からスムーズであった」が各2件ずつ、その他9件挙げられた。

4歳開始をよしとした9例では3歳と同じく「コーチのいうことが理解できるようになる」が主な理由で7件であった。次いで「上達が早い」3件、「無駄がない」2件、その他が3件あった。

5歳以降の6例でも、3歳4歳と同じく「コーチのいうことが理解できるようになる」が2件他が挙げられた。

以上の共通して多く挙げられた理由から親の水泳に関するとらえ方を分析すると、0～1歳の低年齢では「水に慣れること」を目的としており、3歳以降では「効果的な水泳技術の習得」を目的としているものが多いと思われた。0～1歳のベビースイミングでは「自然に水に親しみ、親子で楽しむ」という考え方が、かなり浸透したようであるが、2～3歳前ぐらいの幼児水泳は技術の習得と楽しみとしての水泳との兼合いが難しいようである。

IV 要 約

乳幼児水泳に通う児の発育状況は今回調査した範囲では良好であった。母子健康手帳を利用してのデータ収集という点では、身体計測値はかなりよく記入されており、スイミングクラブとしては定期的に母子手帳を提出してもらうか、または母子手帳から転記してもらうようにすることで、児の発育状態を把握することが可能であることが分かった。ただし1歳過ぎると頭囲胸囲の記載欄がないので、水泳の胸囲に及ぼす影響をみる資料としては不十分である。しかし定期的な母子健康手帳の提出は健康診断の受診状態も把握でき、受診してないものには受診を促すこともできる。以前行なった調査⁴⁾では「健康管理は会員に任せる」としたスイミングクラブが多かったが、スイミングクラブとして児の健康診断を行なうことが難しい実情から考え、最低これぐらいの健康管理の

配慮はしてもらいたいと考える。

発達に関しては、母子健康手帳の記入欄は母親による判断なのでやや信頼性が薄い結果がみられた。必要であれば、幼児健康度調査のような具体的質問項目を定期的に調査した方がよいと思われた。幼児健康度調査と同じ質問調査では「約束・順番を守る」で水泳実施児の方に良い結果が得られ、水泳技術のみならず社会性の育つことが明かとなった。

母親のアンケートでは、健康面で「風邪をひきにくくなった」が目立ったが、「風邪で休みがち」「水いぼ」「中耳炎」の悩みも挙げられた。生活面では「友達ができた」など社会性に関するメリットが多く、悩みは少なかった。性格行動に関しては「自信がついた」など生き生きとした子供像が同え、悩みは一般的なもので特に水泳との兼合いで問題があるとは思われなかった。

V 結 語

乳幼児水泳に通う児の発育発達状況は、今回調査した範囲では良好であった。母子健康手帳利用によるデータ収集という点では、胸囲の計測が今後の検討課題となったが、健康管理の一助としての母子健康手帳利用は有効である事が判明した。

本研究の一部は総合母子保健センター保健指導部曾根秀子、愛育研究所宮崎叶との共同研究で行ない、第33回日本小児保健学会（1986）において発表した。

文 献

- 1) 青柳幸子，他：ベビースイミング参加児の発育発達に関する縦断的研究（第一報），日本総合愛育研究所紀要第19集，p 37～41，1983
- 2) （社）日本小児保健協会：幼児健康度調査報告書，1981
- 3) 曾根秀子，他：ベビースイミングについて（第二報）母親の意識調査，日本総合愛育研究所紀要17集，p 21～31，1981
- 4) 曾根秀子，他：ベビースイミングについて（第一報）日本総合愛育研究所紀要第16集，p 29～39，1980

